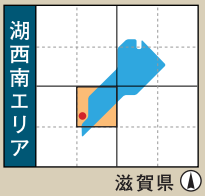
名勝
県指定

聖衆来迎寺庭園（しょうじゅうらいごうじていえん）

大津市比叡辻二丁目　昭和57年3月31日指定



聖衆来迎寺は、最澄が自ら刻んだ地蔵菩薩を本尊とした、地蔵教院を建立したのが始まりとされています。その後、長保3年（1001）「往生要集」を著した恵心僧都源信が入寺し、念仏道場としました。人が死に臨んだ時に聖衆が浄土から迎えに来るという意味の「聖衆来迎」の寺というその名からも、浄土の雰囲気が伝わってきます。

当時のできごと	
1010年	紫式部がこの頃源氏物語を著す
1590年	秀吉小田原城を攻める
1598年	秀吉没

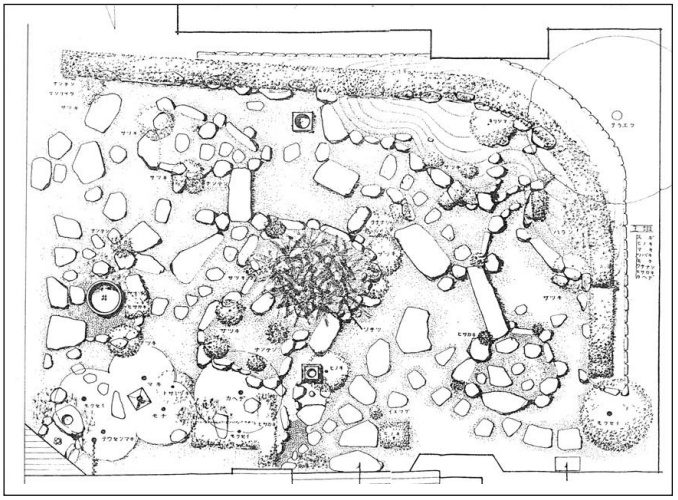


聖衆来迎寺庭園

聖衆来迎寺庭園について

庭園は、客殿の東側と庫裡の南側に面します。庫裡は、天正17年（1589）に、京都の元応国清寺の建物を移したと伝えられますので、この庭もこの頃に造られたと考えられます。

庭園は、立花（華）に則して造られているともいわれ、茶湯、立花、作庭で才能を発揮した千菜（ほしな）寺宗心をこの作者とする考えもあります。近くにあった坂本城主明智光秀と宗心の父が、同郷の美濃土岐氏出身の縁で、光秀が、宗心に築庭させたという、伝承があるためかもしれません。



聖衆来迎寺庭園測量図



庭園の特徴

この庭は、中央のやや西寄りに石組をめぐらした島を造り、当時としては珍しいソテツを配しています。東南隅には枯滝石組を設け、流れに石橋を渡すなど、石組を多用した景観豊かな庭となっています。

尚、この庭の景を、立花の手法に例えて解釈しようとする見方もあります。

［比叡山の正倉院］

聖衆来迎寺には数多くの寺宝が伝えられています。特に国宝の絹本著色六道絵15幅は我国を代表する六道絵として有名です。これらの寺宝類は毎年8月16日の「虫干し会」で公開されます。

関連する文化財

聖衆来迎寺客殿（重文）	寛永15年（1638）から5年をかけて建立されたもの。同じ坂本地区にある西教寺の客殿によく似た様式を持つ
絹本著色六道絵（国宝・重文）	鎌倉時代の写実精神が見事に活かされた、たぐいまれな「六道絵」の名品。15幅がのこる
坂本伝統的建造物群（大津市）	延暦寺や日吉神社の門前町として栄えた坂本の町並み。里坊と石垣が特徴
史跡延暦寺境内（大津市）	学習シートNo.004

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077−521−2100　大津市御陵町2−2
琵琶湖文化館	☎077−522−8179　大津市打出浜1−1
大津市教育委員会	☎077−528−2638　大津市御陵町3−1

聖衆来迎寺庭園へのアクセス　JR湖西線　比叡山坂本駅下車



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園1〜3〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月